



るるるるる



2025 年
6 月
No.930

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631
■ウェブサイト■ <https://jelc.or.jp/>
■E-mail■ jelc@jelc.or.jp
■発行人■ 竹田大地 koho@jelc.or.jp
■印刷人■ 精文堂印刷株式会社
■定価■ 1部 40円(郵税を含む)
■振替口座■ 00190-7-71734

説教 「主イエスの昇天の姿を注視する」

日本福音ルーテル保谷教会牧師 坂本千歳

「イエスは、そこから彼らをベタニアの辺りまで連れて行き、手を上げて祝福された。そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた。彼らはイエスを伏し拝んだ後、大喜びでエルサレムに帰り、絶えず神殿の境内において、神をほめたたえていた。」(ルカによる福音書 24:50〜53)



復活の主イエスは弟子

変えたのでしょうか。

また、主イエスが弟子

たちに現れ、40日の間、弟

子たちに神の国について

たちやこの世界を祝福さ

教えられ、罪の赦しの福

立させたのは、大きく両

手を広げて祝福しながら

音をあらゆる国の人々に

天に昇つていかれた主イ

エスのお姿ではなかったで

し、伝えようと彼らに命

じられました。そして、彼

らの見ている前で天に

昇つていかれたのです。そ

の後、彼らは「大喜びでエ

ルサレムに帰り、絶えず神

殿の境内において、神をほ

めたたえていた」とありま

す。ついこの前まで、恐れ

と不安に取りつかれ、家

に鍵をかけて閉じこもつ

ていた弟子たちが、敵対

者が大勢いる神殿の境内

でこのような行動をとる

ようにするのは、まるで

人が変わってしまったか

のようです。何が彼らを

取つたのでしょうか。

変えたのでしょうか。

また、主イエスが弟子

たちやこの世界を祝福さ

れたのは、ご自分の命と

引き換えにするほどに、

私たち一人一人の存在を

かけがえのないものとし

てくださったこと、そして

福音宣教すなわち、誰に

とつてもよきおとずれで

ある命の尊厳や取り換え

のきかない一人一人の存在

の価値を伝える使命が、

私たちキリスト者と教会

に託されたことを厳粛に

受け止めなければならな

いでしょう。

これはいつの時代にあ

つても、挑戦的で命が

けの使命となるのです。な

ぜなら、この世は神の愛

から遠く離れ、神を神と

認めず、相対的にすぎな

いものを絶対

化して、その結

果、人間の命・

尊厳をないがし

ろにする力が

強く働くから

です。時にその

力に飲み込ま

れ、翻弄(はんろう)される

私たち自身で

もあるのです

が、だからこそ、

主に従う私たちは、大き

く両手を広げ、祝福しな

がら天に昇つて行かれた

主イエスのお姿を絶えず

思い起こす必要があるの

ではないでしょうか。

ルカ福音書の続編であ

る使徒言行録には、「イエ

スが離れ去って行かれる

とき、彼らは天を見つめ

ていた。」(1章10節a)と

あります。「見つめていた」

とは、アテニゼインという

ギリシャ語ですが、「二心

に、注意深く見つめる」こ

とで、不思議なものを

じつと見つめること、また

期待と希望をもつて見つ

めることです。

私たちキリスト者も、

例外なく誘惑や苦難に

出会うことは必至なので

すが、しかし、私たちを取

り巻く文化・価値観が苦

しみを避けるためなら何

でもするという傾向が強

いのに比べて、十字架の苦

しみ・死を経て復活へと

導かれる聖書の信仰は、

苦しみの中から非常に大

きな救いとなるようなこ

とが生じるのだという、

本當の希望に私たちを目

覚めさせてくれるのです。

この希望に目覚めた弟

子たちは、もはや自分た

ちの命を狙う者たちの存

在を恐れず、大胆に喜び

にあふれて敵のただ中で

神を賛美するのです。同

じように私たちもまた、

主イエスの姿を一心に見

つめ、いと高きところにお

られる神のまなざしを感

じながら主を賛美し、証

ししたいのです。飾り立て

た言葉をならべる必要も

なく、誰かのまねをする

必要もなく、あるべき論

も必要ありません。「わた

しは、父が約束されたもの

(聖霊をあなたがたに

送る。高いところからの

力に覆われるまでは、都

にとどまっていなさい」と

主は言われました。

「自力で」ではなく、父

から送られる聖霊の力に

よつて、また、孤立してで

はなく、主イエスにつなが

る群れとして、祈り賛美

し、励まし合い、その時を

待ちましよう。やがて、そ

の群れの真ん中に聖霊が

注がれます。

伊藤早奈

⑬「思う」

「祈りの度に、あなたがた

のことを思い起こし、絶

えず感謝しています。」(エ

フェソの信徒への手紙1:

16)

「お祈りしておりま

す。」えつゝあの人からも

「祈り」つて言葉が言われ

るのね。

それは退院の時です

た。それから何度か宗

教的背景を私は聞いたこ

とも見たこともない人た

ちからも聞きました。ど

ういう意味だろう。多分

その人たちにとって「祈

り」とは神様への語りか

けというような宗教的な

意味は少ないような気が

します。

幼いころ私は祈りの中

で自分の名前が呼ばれる

ことが好きでした。祈り

の言葉の意味がわからな

くて退屈な気持ちにな

り、長いお祈りに飽きて

しまったとしても自分の

名前がそのお祈りの中で

あげられると、その時だ

け喜んでいました。

今は違います。お祈り

の中にお二人お一人のお名

前が呼ばれると心の中に

お一人お一人が浮かび、後

に続く祈られる方の言葉

がお一人お一人にかなうよ

うに思えるのです。

「祈り」は変わりませ

ん。たとえ捉え方や捉え

る方の意味が変わったと

しても「祈り」はあなたを

思い、あなたのためにあり

ます。誰も気づいてくれな

くても神様が気づかれま

す。なぜなら、かけがえの

ないあなたへの思いだから

です。

私に「お祈りしており

ます。」と言われた方の思

いはきつと「いつもあなた

を思っております。」とい

う意味だったのかもしれ

ません。

いつもあなたの名前を

呼び、いつもあなたのこと

を思つてくださる方がお

られます。誰にも気づか

れないとしてもかけがえ

のないあなたのために。気

づいた時にお伝えすれば

いいと思います。「神様い

つもありがとうございま

す。」とね。



リレーコラム

「全国の教会・施設から」(25)



■日本福音ルーテル
大森教会

岩松信親

(日本福音ルーテル
大森教会信徒)

さて皆さんは大森教会を「存じますか。特になにが有るといった教会ではありませんが、二人一人の教会員を大切に運営されております。この事は確かにすぐに結果を求めるのとは違い、少し時間は掛かりますが安定した教会運営が行われていきます。

が大切です。確かに時間は掛かりますが、その後の教会運営が安定するものと考えております。簡単にできそうですが、どうしても上に立つ人の意見に引張られてしまうことが多々あります。なかなか初めから自分の意見を述べることが難しいですが、その時に周りが手を差し添えていくような、ささいな行動が新しい教会員が安定していく一つの道だと考えています。

そこで具体的にどの様に運営されているのかです。総会や信徒会等の時は一人二人の意見や提案に対して話を聞き、本当に気持ちを理解して進めて行きます。その発言者もまあ良かったと感じること



■九州ルーテル学院
インターナショナル
スクール小学部

安達均

はありますが安定した教会運営を行っています。大森教会のこれからの課題としては、現在、牧師が幼稚園の園長を兼ねていることです。教会の牧師と幼稚園の園長を分ける事が必要であると考え方もいらつしやるかと思えます。これまでの教会と幼稚園の伝統と、牧師の働き方の兼ね合いが大変に難しい問題であり、教会員と相談しながら進めていきたいと考えています。

もう一つは山王講座といて、年に数回講座を開催しております。これはバツハの研究をされている方で、教会の役員である加藤拓未さんによって運営されています。演奏会を行ったり、音楽史の研究発表会を行ったりしています。本年度は11月30日

(日)、12月7日(日)にメサイアの解説講座を行い、12月14日(日)にメサイアコンサートを行う予定です。よろしければ足をお運びください。これらのことを実施しながら、地道で

に、本小学部の校長、チャプレン、児童の声を届けます。

「子ども自身が自ら問題に気づき、それを解決するために学び、自分なりの方法で表現していく、そのような学びを大事にしています。予測困難な正解のない社会に生き抜く力を身につけ、将来どのように生きていくのかを学ぶことができる学校です。ルーテル学院の伝統である英語教育、そして各学年定員20人という少人数教育で、二人一人に合った学びを展開していきます。これからの未来に必要な平和な世界を創る国際的な人が育つインターナショナルスクールです。」(校長上妻薫)

「毎朝の礼拝で聖書の言葉を聴き、賛美歌を歌います。週に1時間は聖書を学ぶ時間があります。聖書にある目からうろこが落ちるような数々の物語を通して、神がいかにこの地球環境も人も愛し、罪深い人類を諦めないでおられるかキリストの恵みに気づかされ、神に感謝し、喜んで隣人に奉仕する(感恩奉仕)人格教育が行われ



改 宣 室 教

小泉基

(日本福音ルーテル札幌
教会牧師・宣教室長)

大和由祈

(日本福音ルーテル
大岡山教会信徒)

小泉 大和さんは、捜真女学校というキリスト教学校で海外研修を担当していると伺いました。どのような研修なのですか。

大和 もう20年以上前、生徒が文化祭の売り上げ等でカンボジアに小学校の校舍を贈呈したことで、この小学校を訪問する研修が始まりました。毎年有志の20人、30人が参加し、小学校での交流や集めた文房具の寄贈の他、NPO団体への訪問、内戦の博物館見学なども組み入れられています。

小泉 研修の担当には、困難も喜びもありますよね。

大和 コロナ以後は、参加希望者を募ることに難しさがあります。ですが、学年も部活動も動機もばらばらだった高校生たちが、事前学習や交流会準備、現地での毎晩の振り返りを通じて、だんだんと一つの

チームになる姿を見て、とうれしくなります。参加する生徒の力で「研修が一つの作品につくりあげられていく」という感覚があつて、毎回「どんな作品になるのか」と楽しみにしながら関わっています。

小泉 研修を担当することになった経緯を教えてください。

大和 高校生の時にJELAのアメリカワークキャンプに参加して海外での支援活動に関心を持つようになりました。でも、大学でバングラデシュへのスタディーツアーに参加したとき、「まずはこの現状を日本の若者に伝えなければ」と感じ、教員を志すようになり、同時に、教会の中、高校生キャンパスにスタッフとして関わったことも影響したと思います。そして教員になって1年目に、この私の経験を知った先輩が、学校で行われていたカンボジア研修の担当に誘って下さったのです。そこから引率すること8回、学校の中でも「カンボジアといえば大和」となるくらい、どっぷりカンボジアに漬かっています。

小泉 ありがとうございます。最後に、生徒さんとかかわりで大切にしておられることと愛唱聖句を教えてください。

大和 大学生の時に教授に言われた「教会は自分の意思で『教会に行こう』として来た人ではなく、神様の福音を語れないけれど、生徒たちは必ずしも『キリスト教学校だから』来るのではない。だから学校の方がたくさんの人に神様の福音を語れる可能性がある」という言葉です。宗教行事に限らず、二人一人のやりとりやその可能性を生かせる場所や機会を用意し、さまざまな経験をさせてあげること、生徒たちが「私たち人間は一人一人神様に愛されている存在である」と実感してほしいと思っています。愛唱聖句はヘブライ人への手紙12章11節です。



世界の教会の声

浅野直樹 Sr.
(日本福音ルーテル市ヶ谷教会牧師・世界宣教主事)

南米のサマーキャンプ

アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイといえはカトリック信徒が大半の国ですが、ルーテル教会もあります。これら3カ国がひとつのルーテル教会IERP(リオ・デ・ラ・プラタ福音教会)を形成しています。今年1月、IERPはユースサマーキャンプを実施しました。南半球に位置しているので1月がまさにサマーキャンプ。3カ国のそれぞれの教会が独自に企画、テーマを設けて青年たちの霊的成長を目指しました。

今年の集会のハイライトは、アルゼンチンの青年エンゾ・ヤコブさんの洗礼式でした。アルゼンチンのミシオネスでのサマーキャンプで彼は洗礼を受け、それによつて参加した90名の青年たちの連帯と信仰が強められました。エンゾさんは数年前に経験した大きな事故から回復、それがきっかけとなり教会につながり友人を得て、教会が居場所となりました。彼の証しは参加した青年たちの心に届き、サクラメントの大切さを学びました。アルゼンチン西地区での

<https://lutheranworld.org/news/summer-camps-youth-strengthen-faith-and-community>

テーマは「神は愛」。デーコンのルベンさんは、神の存在を感じとれる環境の大切さを強調しながら、「信仰が強められ、愛することの意味を深く知る機会となりました。素晴らしいキャンプでした。感想を述べています。

パラグアイでは「何事にも時がある」「コヘレトの言葉3:1」をテーマに109人が集まりました。ワークショップでは日々の霊性、不安、創造性、リサイクルなどについて話し、夜はキャンプファイアで振り返りをしました。「目的をもつて生きることを神様から教えられ、そのときそのときが大切なのだ」とキャンプで気づきました。(パトリシアさん)

ウルグアイでは17人が参加、「強いルーツと健康に生きる」をテーマに、健康的な食生活や性についてワークショップをしました。ビーチタイムやサッカー、コスプレ、デイボーションと盛りだくさん。参加者たちは信仰と健やかに生きることの大切さに気づき、「助け合うことで絆が強くなりました」と体験を話してくれました。こうしたキャンプは青年たちの霊性を高め、ルー特派信仰への自覚を促し、神と出会う時となりました。霊的リニューアルを体験してキャンプを終え、貴重な時間を過ごすことができました。

世界ルーテル連盟(LWF)第28回国際牧師セミナー報告

多田哲
(日本福音ルーテル会志教会・水俣教会牧師)

2025年3月8日、22日までドイツのヴィッテンベルクにて開かれたルーテル世界連盟(以下LWF)第28回国際牧師セミナーに参加しました。テーマは「聖なる教父たちに従い、我々は一致して教える」。我々は一致して教える(ルター派にとつての信条)です。LWFに加盟する18か国20教会から21人の牧師が参加し、講義やディスカッション、さまざまな課外プログラム、お互いの教会の紹介などが行われました。毎日のプログラムは礼拝に始まり礼拝に終わります。

LWFヴィッテンベルク・センター学監の先生と参加者が毎朝夕の礼拝を担当し、準備や振り返りの中で典礼と神学との不可分な関係が繰り返され、強調されました。信仰は具体的な礼拝の実践を通してこそ生じると改めて学び、特に「神学なくして典礼なし、典礼なくして神学なし」という言葉が印象的でした。敬虔(けいけん)主義と信仰覚醒運動との影響を強く受けている日本のプロテスタント教会の個人主義的信仰文化に対して、典礼の重要性と世代を超えて継承される共同体の信仰形式の重要性を思わされました。

講義は2人の専門家の先生が担当され、第1週は信条学が専門のイシュトヴァーン・パーストリック・バーン博士(カール・ガースパール大学)による初代教会の信仰告白に関して使徒言行録から読み解いていく講義です。イエスはキリストであると告白する最古の信仰表現に始まり、異邦人への福音伝道、エルサレム使徒会議における律法問題、そして神の言葉を人間の言語で表現する限界が論じられました。それゆえに人間は神学の研究と翻訳の努力とを教会の歴史の中で積み重ねてきたのです。

第2週はケスリーン・クラインハンス博士(キャピタル大学トリニティ・ルーテル神学校)による公会議と信条形成の歴史についての講義です。初期の公会議におけるアリウス派の問題、ニケア信条の意義、それを受け継いだカトリック教会とルター派の信条が取り上げられました。特に「わたし」と「わたしたち」という信仰告白表現の違いが掘り下げられ、現代の個人主義とは異なる、教会の一致を前提とした信仰告白の意味が強調されました。さらに、ルターによる召命観と教育観、社会への働きかけが「信仰の告白」の一部であることが確認され、単なる個人の確信に留まらな「公同の証し」として信条を捉える視座が与えられました。

また、参加者それぞれの教会の歴史や組織形態についてお互いに紹介した際には、世界のさまざまな地域や異なる社会の状況にあつても、同じルーテル教会として共通した恵みや課題を共有していることを確認しました。総じて、神学の講義から学ぶというよりも、世界各地の異なる文化の中で牧会にあたるルーテル教会の牧師たちが信条と礼拝を通じて「A Communion of Churches」というLWFのモットーを体験することが、このセミナーの中心的な目的であつたように思います。



セミナー参加者たちとヴィッテンベルク城教会全聖徒会堂にて

ブラウンシュヴァイク(ELKB)訪問報告

多田哲
(日本福音ルーテル会志教会・水俣教会牧師)

2025年3月23日(日)、世界ルーテル連盟のセミナー後にドイツのヴォルフエンビュッテルを訪問し、ブラウンシュヴァイク福音ルーテル州教会の日本協働会との懇談会に出席しました。この懇談会は、日本協働会の前委員長ボードー・ヴァルターさんが私の渡独に

合わせてコーディネーターとしていただきました。出席者はヴァルターさんの他に、現委員長のアンドレアス・ヤンケさん、世界宣教主事のマルティン・エバレ牧師ら10名で、短い時間でしたが意見交換を行いました。

日本に昨年派遣されていたタベアさん、ヤンさんの姿もあり、ヴァルターさんとも久々の再会で、旧交を温めながら今後の協力について話し合う良き

ひとときとなりました。懇談の中では、オンラインによる継続的な対話の可能性や、教会が担うディアコニアの働きに関する話題が上がりました。特に、原子力問題のようなブラウンシュヴァイクでも日本でも社会的関心の高いテーマを共有することでお互いの教会がさらに実質的な関係を築けるのではないかとという提案がなされました。ブラウンシュヴァイクは地域内にASSE IIという閉山した鉄鉱山を利用した核燃

料廃棄物の最終処分場を抱えており、その危険性に対する社会の関心を喚起するために定期的に現地で礼拝を続けています。

また、幼稚園や保育園は日独双方において教会と社会との関わりの深い働きであるので、職員研修などを日本とドイツとでオンラインで連携する案も提示されました。ドイツの教会も、牧師・信徒数の減少や兼牧・兼任の多さなど、多くの共通した課題を抱えています。その中で日本の教会に何か

ヒントがないかとの問いかけもありました。国が違っても現場の苦悩は共通しており、今後のパートナーシップをどう維持・発展させていくかの鍵になると思います。

さまざまな課題がある中でも、ブラウンシュヴァイクの教会の皆さんが日本の教会の働きを覚え、折つてくださっていることもお聞きし、この日も希望の家の働きのためにブラウンシュヴァイク大聖堂をはじめ複数の教会が献金をささげてくださいい



日本協働の皆さんとヴォルフエンビュッテル市内のカフェにて

日本福音ルーテル教会
第31回定期総会開催報告

竹田大地
（日本福音ルーテル
天王寺教会牧師・広報室長）

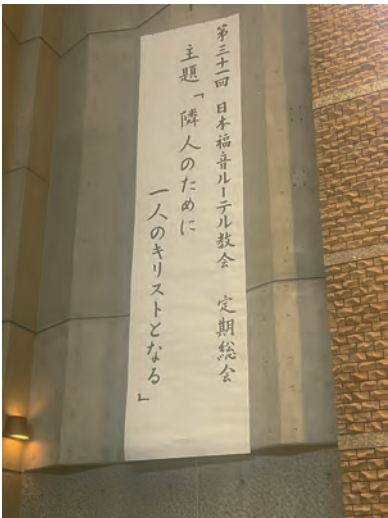
2025年5月5日（6日）に日本福音ルーテル教会宣教百年記念東京会堂にて「日本福音ルーテル教会第31回定期総会」が開催された。前回の第29回・第30回定期総会において1泊2日での開催が決定し、今総会より1泊2日の日程で行われた。全国各地の日本福音ルーテル教会・施設から、信徒と教師の議員が一堂に会し、「隣人のために一人のキリストとなる」という主題のもと、第13号議案にまで及ぶ議題について議論し、意見を交換した。はじめに松本義宣牧師（東京教会・板橋教会・教師会会長）の司式、日笠山吉之牧師（九州学院チャプレンの奏楽、永吉秀人牧師（東京池袋教会・総会議長）の説教によって開会



第31回期全国常議員会就任式の様子



開会聖餐礼拝の配餐時の様子



主題「隣人のために一人のキリストとなる」の題字

聖餐礼拝を執り行つた。

説教の中で永吉議長は、教会はいま、どのように隣人となり、福音を分かち合つていくか苦闘していること、その中で教会としての使命と課題を問われていること、その事さらに取り組むにあたつてグローバル、エキュメニカル、ヒストリカルであることによつて教会の使命を託されてきたことを確認した。特にヒストリカルということ

今総会までの間に按手を受けられた牧師、引退された牧師のあいさつが行われた。
今総会における大きなトピックは、「教職育児介護休業規定の件」と、2025年度からのルーテル学院大学新規学生募集停止決定に伴い、ルーテル学院大学の今後と日本ルーテル神学校における「教職養成の今後の件」について特に時間を用いて議論と意見交換の時間を持った。

総会議長、副議長選挙がそれぞれ行われ、永吉秀人牧師（東京池袋教会）が総会議長に、滝田浩之牧師（小石川教会）が副議長にそれぞれ再選された。また、書記指名選挙では李明生牧師（むさしの教会）が指名され、信任された。

聖餐礼拝（新常議員就任式）は、河田優牧師（日吉教会・横浜教会）の司式、宮澤真理子牧師（市川教会）の奏楽、2026年3月で定年を迎えられる浅野直樹Sr.牧師（市ヶ谷教会）の説教によつて執り行われた。浅野牧師より、キリスト者へと招かれたご自身の経験をもとに、神から選ばれて、召され、人知では理解できない神の御業によりキリスト者一人一人があり、教会の働きに遣わされていることを分かち合つていただいた。

また、礼拝の中で第31回総会期新常議員の就任式が行われ、総会の全日程を終了した。
今回の第32回定期総会は2027年5月3日（4日）に開催予定である。

閉会礼拝（新常議員就任式）は、河田優牧師（日吉教会・横浜教会）の司式、宮澤真理子牧師（市川教会）の奏楽、2026年3月で定年を迎えられる浅野直樹Sr.牧師（市ヶ谷教会）の説教によつて執り行われた。浅野牧師より、キリスト者へと招かれたご自身の経験をもとに、神から選ばれて、召され、人知では理解できない神の御業によりキリスト者一人一人があり、教会の働きに遣わされていることを分かち合つていただいた。

第32回 春の全国 teens キャンプ報告

森田哲史
（日本福音ルーテル大森教会牧師・第32回春の全国 teens キャンプキャンプ長）

今年の「春の全国 teens キャンプ」（以下、春キャン）はコロナ後の3年間開催された千葉県を離れ、宮崎県えびの市で行いました。

今回は、フェイスカッショ中心の春キャンから体験中心の春キャンを目指し、廃校を活用した、農作業を体験できる宿泊施設で行われました。さあ、いざ農作業だ！と思つていましたが、あいにくの荒天。急きよ予定を変更して、ケージ飼いと平飼いの両方を実践している養鶏場を訪ねました。養鶏家の方のお話を聞きながら、普段口にするものがどのように私たちに届くのかを考えさせられました。

また、餌やりをさせていただいて、採卵した卵を食事の時に食べたりしました。聖書からは神様からの恵みを出エジプト記のマナや主の祈りを通して考えました。目に見える恵み、目に見えない恵み、一見私たちには善いとは思えないことができない恵み、さまざまな恵みを聖書に聴き、それぞれの体験を分かち合いました。閉会礼拝で

は安達均チャプレンから「その日の糧」とは食べ物だけではなく、イエス様のこともあること。そして食べ物もイエス様も私たちが祈る前から与えられていることを聴きました。

参加者からは、次のような感想がありました。「私は、『めぐみ』とは何かについて話した時の、チームの答えに深く感銘を受けました。それは、『プラスのことだけでなく自分にとってマイナスなことでも、めぐみだと思ふ』という言葉です。私はそれに対して、そんな視点があるんだと思いました。自分だけでは出てこない答えを聞けて、視界が広がったように感じました。私は、このように人から学べることも『めぐみ』だと思います。私たちの周りには沢

山の『めぐみ』が見えないところにもあるということを実感しました。」（原文ママ）

各教会をはじめとする多くの方の祈りと、各教区、女性会連盟などの皆さまのお支えによつて、恵みのうちに終了することができました。感謝して報告に代えさせていただきます。参加者の感想をまとめた思い出集を各自教会にお送りさせていただきますので、そちらもぜひご覧ください。

第32回春の全国 teens キャンプ概要

開催日程：2025年3月26日（土）～28日（月）

会場：宮崎県えびの市

テーマ：日「この糧

主題聖句：「見よ、わたしはあなたたちのために、天からパンを降らせる。民は

等価交換

1）所在地 水俣市陣内

2）丁目80番5

所有者 日本福音ルーテル教会

地目 宅地

地積 147.95㎡

2）所在地 水俣市陣内

2）丁目80番5

所有者 日本福音ルーテル教会

代表役員 永吉秀人

信徒利害関係人 各位

水俣教会牧師館底地部分と学校法人熊本ルーテル学園所有の土地との

種類 牧師館

構造 木造2階建て

床面積

出て行つて、毎日必要な分だけ集める」（出エジプト記16章4節）

参加者：30人（北海道1人、東10人、東海9人、西2人、九州8人）

スタッフ：26人

キャンプ長：森田哲史牧師
チャプレン：安達均牧師
プログラムのねらい：自然の中で神様の恵みを知る。



集合写真

公告

この度左記の行為を致しますので、宗教法人法第23条の規定に基づき公告致します。

2025年6月15日

宗教法人日本福音

ルーテル教会

代表役員 永吉秀人

信徒利害関係人 各位

水俣教会牧師館底地部分と学校法人熊本ルーテル学園所有の土地との

種類 牧師館

構造 木造2階建て

床面積

1階70.24㎡

2階26.44㎡

理由 学校法人熊本ルーテル学園の所有する以下の土地との等価交換のため

所在地 水俣市陣内2

丁目74番75番

所有者 学校法人熊本ルーテル学園

地目 宅地

地積 127.81㎡

状況 更地